

# 発情の抑制について

## A. 環境操作による発情抑制

### 日照時間を管理する

- ほとんどの鳥が、明るい時間が長くなると発情する長日繁殖動物です。
- 明るい時間を10時間以内、場合によっては6~8時間以内とします。
- 鳥が起きていてもかまいません。暗いことが大切です。
- 真っ暗である必要はありません。明るい時間との差が明瞭であればOKです。
- ブンチョウだけは短日繁殖動物といわれています。明るい時間を10時間以上にしてみましょう。

### 発情対象を管理する

#### (1) 発情対象となっている“鳥”を避ける

- 対象となる鳥が見えない、声も聞こえない場所に隔離しましょう。

#### (2) 発情対象となっている“人”を避ける

- 対象となる人は接触を避けましょう。声をかけたり撫でたりは厳禁です。
- どうしても接触しなければならない場合は“変装”しましょう。

#### (3) 発情対象となっている“物”を避ける

- 対象となる物(鏡、人形、鈴、ブランコなど)は取り除きましょう。
- 特におもちゃは厳禁です。多くの小型鳥はおもちゃを発情対象としてしか認識しません。

### 環境と餌を管理する

#### (1) 巣と巣の材料を取り除く

- 鳥は木の枝にとまって生活する動物です。巣は繁殖のためのもので、巣や巣材があると発情が促されます。
- 巣、巣材(床紙、ワラ、チップ、布など)、潜り込めるものすべてを取り除き、シンプルな環境にします。
- ケージを巣と思っている場合、ケージの“底”を外し、糞切り網だけにして(全面網の状態)、空中にぶら下げます。
- 巣作り行動をさせないため、放鳥も避けます。

#### (2) 温度と湿度を下げる

- 小型鳥の多くは暖かく水が豊富で湿度の高い雨季に繁殖するので、温度と湿度を下げ水浴びも控えましょう。
- 温度と湿度は下げ過ぎると体調を崩す原因にもなります。無理せず、よく観察しながら実施しましょう。
- ブンチョウは逆に湿度を上げると発情が抑制される傾向にあります。

#### (3) 青菜を制限する

- 雨季に摂食量の増える青菜も発情を促すと言われているため控えましょう。
- ビタミンの不足は、ペレットへの変更やビタミン剤で補います。

## B. 体重管理による発情抑制

### 体重を管理する

- 小型鳥(特にセキセイインコなどの砂漠腫)は、餌が豊富な時期(雨季)に発情し、餌が少ない時期(乾季)は発情できません。
- 発情しなくなる体重になるまで、徐々に食事量を減らします。(ダイエットのリーフレットを参照してください)
- 体重管理は、最も効果の高い発情抑制法です！環境操作による発情抑制は必要なくなり、自由に生活してもOKです♪
- ただし、きちんとした体重・食事管理が出来ていないと命の危険があるため注意しましょう！

## C. 医学的な発情抑制

- 鳥では、犬猫のような去勢手術や不妊手術による発情抑制がまだ安全に実施できません。
- 薬剤による発情抑制は、内服や定期的な注射などいくつか方法があります。
- 薬剤による発情抑制ですが、これも100%安全とは言えませんので、疾患が関わる発情にのみ使用します。



**ノビ動物病院**

〒069-0813 北海道江別市野幌町 8-18

TEL : 011-375-6331